

地域スポーツ文化を生かした まちづくり

～「東北楽天ゴールデンイーグルス」・「ベガルタ
仙台」との連携による宮城県仙台市のまちづくり～

宇都宮大学 国際学部 中村祐司ゼミ

3年 豊田浩司 渡邊陽子

<目次>

- 1 . はじめに p 3
 - 2 . 問題提起 p 3
 - 3 . スポーツによるまちづくり p3~4
 - 4 . 仙台市とベガルタ仙台、新球団の歩み p 5
 - 5 . 「ベガルタ仙台」とまちづくり p 5 ~ 8
 - 6 . 「東北楽天ゴールデンイーグルス」とまちづくり
p 9
 - 7 . スポーツを通じた新しい地域社会構築の可能性 p 1 0
 - 8 . まとめ p 1 0 ~ 1 1
- 参考文献 p 1 1

1 . はじめに

スポーツを活かしたまちづくりは全国で行われている。例えば別冊にあるように鹿嶋市と磐田市のような成功例が挙げられる。しかし2002年に行われた日韓合同開催のFIFAワールドカップの際では、各自治体は地域活性化の為に次々と競うようにスタジアムを建設したのだが、それはただ経済的な地域活性化だけが重視された結果なのであった。経済的効果によるまちづくりだけを重視したそれらの自治体では、いまスタジアム関連の巨額の負債に悩んでいる。だがスポーツを活かしたまちづくりはその地域に経済効果をもたらすという面だけでなく、**社会効果という面も期待できるはずなのである。**

いまさまざまな自治体がこのようなまちづくりを進める中で、我々はプロ野球パシフィック・リーグの新球団「東北楽天ゴールデンイーグルス」誕生に盛り上がる宮城県仙台市に着目した。プロ野球球団は地域密着というよりもほとんど企業の宣伝機関としての存在であったので、それゆえ球団が地域密着性を有するのは困難であるという以前から存在した風潮を打ち破って、その新球団は地域密着の市民に愛される球団作りを目指している。このことは仙台市のスポーツのまちづくりに大きく関係するものである。そこで私たちはJリーグ球団「ベガルタ仙台」と絡んだ行政のまちづくりや市民活動との連携、また他のプロスポーツ球団のホームタウン自治体の施策や市民の活動等を調査して、**「ベガルタ仙台」と「東北楽天ゴールデンイーグルス」がこれからの「仙台市のスポーツ文化のまちづくり」にどのような効果を及ぼし、どのようなまちづくりができるのか、それらを交えて検討していきたいと思う。**

2 . 問題提起

宮城県仙台市において、「ベガルタ仙台」と「東北楽天ゴールデンイーグルス」がこれからの「仙台市のスポーツ文化のまちづくり」にどのような効果を及ぼし、これからどのようなまちづくりができるのか？」

3 . スポーツによるまちづくり

日本では戦後以降ほとんどの都市で画一的な開発が行われ、どの都市を見ても同じような景観で新鮮味が感じられない。そして市民の生活面においても、経済成長により大都市部への人口流入、日常生活の機械化と高度化、モータリゼーションによる商業中心地の郊

外化と地方都市の産業基盤崩壊などによって、地域住民が築いていた良好なコミュニティが徐々に崩れはじめていった。

そんな状況下にあって、これまでの単なる街路や公園、建造物といった空間の開発（都市のデザイン）のみでなく、市民とNPOなどの実際にまちで活動している人々が主体となって、積極的に行政と連携して、自分のまちを見直し、まちの個性を再構成し、地域のコミュニティの再構築をする動きが見られるようになった。この市民の「暮らしづくり」をすることが「まちづくり」ではないだろうか。そしてそのまちづくりの中で、地域が持つスポーツ文化も大きなまちづくりの要素となる。地域にはそれぞれのスポーツ文化があり、スポーツ文化を中心としたまちづくりは、そのまちの個性を創出し、地元住民に「市民である」という愛郷意識や、新たな公共性、地域性を根付かせるものともなる。

地域に密着したプロスポーツ球団がある自治体では、それだけスポーツ文化も市民に浸透している。例えば、地域密着型球団の創設を前提に立ち上がったJリーグの各球団のホームタウンでは、市民にサッカーが深く浸透し、支援団体も多く存在している。そのスポーツ文化によって、地域で地域コミュニティの再構築・市民交流の活発化・市民活動やボランティア活動の活性化・スポーツ振興施設の整備など、まちにいろいろな社会効果をもたらし、様々なまちづくりができるのである。その動きに対して行政は、市民の活動とは別に球団を支援するのではなく、市民のコミュニティと連携体制をとれば、球団を中心にまち全体が活性化するはずである。

Jリーグとプロ野球の地域密着度に差がある理由・・・

Jリーグは球団と市民が密接に、相方積極的に交流し協力し合って球団を運営し、地域のスポーツ文化・地域社会を振興させていこうという理念のもとに誕生。

ホームタウンとなる都市

↓（・市民・行政・サポート企業）の協力

地元密着のチーム

つまり都市があつてのサッカー球団

一方、**プロ野球**は学生野球から始まり、のち経済的な理由で新聞社や鉄道会社の宣伝機関として再出発した。多くの球団の親会社は全国規模でマーケティングを行う大企業だったため、多くの球団は地域との関係が希薄になっていった。

オーナー

↓（企業が出資）

PRのための球団

↓（フランチャイズとして存在する都市）

フランチャイズとしての都市

オーナーがいて企業があれば都市はどこでもいいのでは・・・？

4 . 仙台市とベガルタ仙台、新球団の歩み

宮城県の県庁所在地である仙台市は 1600 年、伊達正宗が地名を千代から仙台に改めて入城したときに誕生した。1871 年に廃藩置県で仙台藩が仙台県になり、1889 年に市制施行で仙台市になった。仙台市は周辺町村との編入合併を繰り返して人口が増加し、1967 年には人口 50 万人を突破。1989 年には政令指定都市になった。2004 年現在の人口は 102 万 5714 人で、東北一の都市である。産業構成は第一次産業人口が 1.4%、第二次産業人口が 16.8%、第三次産業人口が 79.5%である。自然増加数は近年ほぼ横ばいであるが、社会増加数は縮小傾向が見られる。

ベガルタ仙台の前身である東北電力サッカー部は 1988 年に創立し、1994 年には行政と地元企業の出資のもとブランメル仙台となる。翌 1995 年には JFL(日本フットボールリーグ)に昇格して、1999 年には Jリーグ二部リーグに参加し、球団名もベガルタ仙台になった。2001 年念願の一部リーグ昇格を果たすが 2003 年二部リーグに降格し、現在に至る。

そして 2004 年、プロ野球パシフィック・リーグの球団合併問題が発生したが、株式会社「楽天」が仙台を本拠地とした新球団を設立し正式承認され、東北初のプロ野球球団「東北楽天ゴールデンイーグルス」が誕生した。

5 . 「ベガルタ仙台」とまちづくり

ベガルタ仙台というスポーツ集団を持つ仙台市の市役所とベガルタ仙台市民後援会に、話を聞くべく仙台に赴き調査した。(2004年11月17日)

行政の活動～仙台市

仙台市にとってベガルタ仙台とは!?

- ・ 仙台市の顔(シティセールスの効果)
- ・ 仙台市のイメージアップ

ベガルタ仙台に対する仙台市の取り組み

- ・ 市役所の担当課：文化交流課とスポーツ交流課を合併 文化スポーツ交流課
文化とスポーツの融合を目指す
- ・ 資金援助(球団に7000万円、市民後援会(参照)に3000万円の援助)
- ・ 宮城県と仙台市と支援企業が合同で**ホームタウン協議会**を設立

ベガルタ仙台を支援する市民の拡大を図る、ベガルタ仙台が行う地域活動等、ベガル

- タ仙台の運営に対して支援するという目的
- ・クラブ情報誌を発行し県内の300個所で配布
 - ・球団と後援会と一体になった広報活動
 - ・積極的に市民と触れ合う場の提供

行政は市民が主体となって球団を応援できるような、環境を整えるための活動をしている。

ベガルタ仙台が仙台市にもたらした効果

- ・経済効果をもたらす（2002年は年間約35億円）
- ・「地域密着」市民の精神的な結束効果をもたらす
熱いサポーターも市の財産

市民の活動～ベガルタ仙台市民後援会～

「ベガルタ仙台が地域に根ざし、県民・市民に愛されるために継続的な応援活動を展開しまた球団の支持基盤を拡大のために広報活動をする。宮城県全体のスポーツ振興・発展による活気ある地域づくりに寄与する。」を目的としている。

ベガルタ仙台市民後援会の特徴

- ・会員一人一人がベガルタを愛している。
- ・球団のために何ができるかを常に考えている。
- ・サポーターやボランティアと違い、草の根的な活動を実行している。
- ・球団を皆に知ってもらうという目的意識を持ち球団や行政にも積極的に協力を求める姿勢を持っている。
- ・仙台スタジアムや選手と市民の交流の企画を数多く企画し、実行に移している。

非常に活動的な市民集団である

ベガルタ仙台市民後援会の歴史

ブランメル仙台時代～球団は試合結果も振るわず、赤字が続き経営難に陥る
ブランメル存続の危機！

市民の有志たちがブランメルの存続のために立ち上がる **市民後援会の設立**

球団の許可を得ず、クラブチームと離れた別個の存在として独自の活動を進める。

球団を盛り上げるための企画 応援企画

1998年～宮城県・仙台市・企業の協力で新生ベガルタ仙台が発足

市民後援会も行政とフロントとの関係が密接に

ベガルタ仙台発足後～

行政から資金援助を受け活動の範囲も広がる。

- ・ ベガルタ色のフラッグをスタジアム周辺に飾る
- ・ スタジアム祭りの企画実行
- ・ 七夕飾り
- ・ 市民に近い存在を目指しての球団への提言

球団との距離も近く、サイン会を企画して選手に依頼すると気軽に応じてくれた。

2001年～J1昇格決定

Jサッカー熱に盛り上がる地元住民

スタジアムは常に満員状態

ベガルタ仙台はJリーグでも屈指の集客数を誇る

年度	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年
観客数	2,642	4,603	5,374	4,854	7,470	8,885	14,011	21,862
Jリーグの平均観客動員					4,596 (J2)	6,095 (J2)	16,548 (J1)	16,358 (J1)

(ベガルタ仙台ボランティアネットワークホームページ、Jリーグ公式ホームページより)

球団を取り巻く環境の変化

支持基盤の拡大 市民への認知度アップという市民後援会の目的は達成された。

しかしそれにより課題も増えた。

課題その 今まで近かった球団との距離が遠くなった

経済的問題・・・ギャランティーの発生

ファンサービスの質の低下・・・ファンの数が増えたことにより、それまでの厚いファンサービスができなくなった

課題その 活動の困難

ファンが増えたことによりすることがなくなった

そのことにより組織としてのステップアップが必要

2003年～降格決定後

講座ベガルタを開講

市民後援会の代表、球団の代表、行政の代表がベガルタの今後を考えるため話し合う。一般市民にも広く参加を呼びかける。

ベガルタ仙台市民後援会の今後

- ・行政との更なる連携
- ・地域密着を目指して球団への更なる働きかけ
- ・まちづくりへの積極的取り組み
- ・コミュニティの拡大による多方面の活動への参加の可能性
- ・球団東北楽天ゴールデンイーグルスの市民後援会との情報交換などの連携体制

、 を通して

このように地域にある球団に対して市民と行政が積極的に企画を出し合い、お互いの協力を呼びかけ合うことにより、さらに都市は活性化し発展していくのではないだろうか。

今後さらなる市民後援会の発展のために必要となってくることは何であろうか。

行政... ・市民団体に対して、球団を盛り上げる企画を行う際、市役所独自で行うのではなく市民団体への協力の要請。

・球団に対して、市民と触れ合うことを積極的に呼びかけ、彼らが**仙台の顔**であるということを意識付けさせる。

・サッカーがもたらした様々な効果、市民のパワーをサッカーだけに留めるのではなく、さらなるまちづくりに生かしていく。

市民... ・球団と**積極的に**交流をはかる。球団を大切にする気持ちがさらに大きくなり、モチベーションがあがる。

・他の市民団体との協力体制。性質の異なる団体と協力することにより、それぞれの特徴を生かした質の高い企画が生まれ、視野も広がる。

6. 「東北楽天ゴールデンイーグルス」とまちづくり

新しく誕生したこの球団を利用したまちづくりも同じく期待できるものである。

仙台市にとっての楽天イーグルスとは！？

- ・ 仙台をアピールするもうひとつの顔
- ・ 都市にとっての「ブランド」的存在

楽天イーグルスにたいしての仙台市の取り組み

- ・ 駅、メインストリートをポスター等の広告物でのデコレーション
- ・ 交通整備、ナイターゲーム用の街灯整備
特に JR 仙台駅東口から宮城球場までの道路整備、また周辺の駐車場整備など。
- ・ 選手たちの練習場の提供
- ・ 選手との交流の場の提供
市が球団に依頼して、住民と触れ合う機会を設け地域密着をアピール
- ・ 市は野球球団にのみ支援を集中させずに、横断的な支援を続ける。

楽天イーグルスが仙台市にもたらすと思われる効果

- ・ 市民への精神的な効果、結束効果
市民の会話の話題になる
- ・ 仙台市の知名度アップ
- ・ 経済効果（市の試算では100～200億円の経済効果が見込まれている）
- ・ 積極的な球団支援の市民団体の誕生、活動の活性化

今後の課題

- ・ 楽天イーグルスを支援しようとする市民団体は増え、全体的に活発化しているが、これらの団体の受け皿が球団にはできていない・・・球団の組織が完成して、担当部署ができることによって解決できるはず。
- ・ 小さな支援団体が多く存在しているので、今はそれぞれ別に活動を行っている団体を一つの大きな行動力を持った団体にするための行政のリーダーシップ・・・今より大きな計画を企画・実行できる。
- ・ 地域密着をうたう球団側との実現可能な地域密着に向けての具体的な話し合い・・・
もともとオーナーがあって存在するプロ野球球団なので、どこまで地域に密着できるか？球団・市民・行政が連携して、市民と球団の間の掛け橋となる団体が必要である。また、オーナー球団であって市民球団ではないので、地域密着の為に「何をすべきか？」をチーム側も考える必要がある。

7. スポーツを通じた新しい地域社会構築の可能性

～「ベガルタ仙台」と「東北楽天ゴールデンイーグルス」がこれからの「仙台市のスポーツ文化のまちづくり」にどのような効果を及ぼし、どのようなまちづくりができるのか～

2つのプロ球団の存在、各チームの活躍、行政の取り組みによる効果

ファンの拡大、ボランティアの増加・活発化、仙台市のアピール・産業振興
「する」だけでなく「みる」、「ささえる」というスポーツ文化が根付き、スポーツが市民の生活の一部になる
市民同士の今まで以上に交流の活発化が考えられる
野球チームの登場により今までサッカーのボランティアに消極的だった野球好きの市民も活動する機会ができるのでは

今まで以上にスポーツが仙台の文化の核となる

さらにスポーツが盛んになり、サッカー・野球に限らずともほかの分野のスポーツも活発化するだろう。市民も生活の中でスポーツに親しむことができる
仙台市には世代に関係なくボランティア意識の高い市民がいるので、次世代の人材育成も容易になるだろう
一時のスポーツブームで終わることなく、かなり長期にわたってスポーツ文化の活性が見込めるのではないか

行政・市民の積極的なチームへの働きかけのほか、チームの応えようとする意欲が必要。

仙台市民だけではなく、東北の人たちの結びつきを強くする存在としての球団になる

東北は野球が発展する土壌が確立している
東北はテレビの野球中継が多く、東北人は幼いころから野球に親しんでいる
東北高校、育英高校をはじめ、甲子園の強豪がそろっている

今まで野球チームがなかった東北にできた初めての球団であるので、注目を浴びるのは必然。このことが地域交流の掛け橋になるのではないだろうか。

8. まとめ

市民と行政と企業が一体となって支えていく J リーグとは異なり、プロ野球球団はオーナーがいて企業の PR としての存在になる。しかし、「地域密着」が求められる昨今のプロ野球界において地元住民と行政との協力は不可欠である。

仙台市はベガルタ仙台を通してのサポート体制基盤やノウハウがある。そして住民のボランティア意識も定着しておりすでに住民の自主的な活動も行われている。以上のことから新球団と仙台市の行政、市民との関わりはこれから起こりうる様々な困難を乗り越えながら、形を変えてますます発展していくだろう。経済効果のみに偏ったまちづくりでなく、社会効果が重視されたまちづくりも更に進歩し、スポーツ文化がより多くの市民の「暮らし」の一部となり、スポーツ文化によって地域コミュニティも今以上に活性化するだろう。東北楽天ゴールデンイーグルスという生まれたばかりの球団を仙台市の住民、行政、楽天がどう育てていくのかとても楽しみである。

参考ホームページ（別冊資料含む）

仙台市ホームページ <http://www.city.sendai.jp/>
Jリーグ公式ホームページ <http://www.j-league.or.jp/>
札幌市豊平区役所ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/toyohira/>
静岡県磐田市ホームページ <http://www.city.iwata.shizuoka.jp/>
茨城県鹿嶋市ホームページ <http://city.kashima.ibaraki.jp/>
日本ハムファイターズ公式ホームページ <http://www.fighters.co.jp/>
ベガルタ仙台・市民後援会ホームページ <http://www.d1.dion.ne.jp/~vegalta/>
キッククラブ・アクティブホームページ <http://www.miyagi-sports.net/kiclub/>
河北新報ホームページ <http://www.kahoku.co.jp/>
カシマスポートボランティアホームページ http://www.sopia.or.jp/kcs/suports/baseball_wind プロ野球の論理学ホームページ http://www.geocities.jp/baseball_wind21/

参考論文（別冊資料含む）

佐藤奈月氏論文『ジュビロ磐田による磐田市の発展』
<http://www.hannan-u.ac.jp/~horikawa/students/satou.htm>
(阪南大学 国際コミュニケーション学部 国際観光学科 堀川紀年研究室 2002年)

参考文献

「クラブ情報誌ベガルタ仙台」2004年10月号（株東北ハンドレッド、2004年）
「仙台市スポーツ振興基本計画「せんだいスポーツ元気プラン」アクションプラン 平成15年度～平成17年度」（仙台市市民局文化スポーツ部スポーツ交流課、2003年）
「仙台市スポーツ振興基本計画」（仙台市教育委員会、2002年）

インタビュー協力

仙台市市民局スポーツ交流課 金田芳典氏
ベガルタ仙台・市民後援会ホームタウン部長 水谷哲也氏



仙台市役所に掲げられた新球団歓迎の幕。行政も歓迎ムードを盛り立てている。
(2004年11月17日)



仙台市西口で一番の繁華街である国分町の飲食店入り口に貼られていた新球団歓迎のチラシ。
(2004年11月17日)



駅前のアーケード商店街「クリスロード商店街」のアーケード入り口にあったベガルタ仙台応援の幕。
(2004年11月17日)